

科 目 名	生 理 学 実 習【理学・作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	田 平 隆 行・八 谷 瑞 紀・原 広 光						
開 講 年 次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	本講義では、神経系や筋の働き、次に、外部環境に働きかける運動、体の外部や内部の環境の情報や神経系に伝える感覚について講義する。また、酸素・二酸化炭素を交換する呼吸の働き、酸素・栄養素を運搬する循環系、その駆動力となる心臓の働きを講義する。また、これらの機能について運動による変化も併せて解説し、実験や作業を通して生理学の理解を深める。						
授 業 の 到 達 目 標	知識・理解 1) 中枢神経の働きを理解する。 2) 末梢神経の働きを理解する。 3) 筋の働きを理解する。 4) 感覚の働きを理解する。 5) 呼吸の働きを理解し、説明する。 6) 循環の働きを理解し、説明する。 7) 運動による呼吸、循環の変化を理解する。 関心・意欲・態度 8) 生理機能を調べる方法に関心を持つ。						
学 習 方 法	講義と実習						
テキスト及 び参考書等	黒澤美枝子・長谷川薫：コメディカルのための専門基礎分野テキスト生理学（中外医学社）						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	○				60	
小テスト等			○			10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			20	
受講者の発表							
授業への参加度	○		○			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	呼吸の働き 1						
第 2 週	呼吸の働き 2						
第 3 週	呼吸の働き 3						
第 4 週	循環の働き 1						
第 5 週	循環の働き 2						
第 6 週	呼吸・循環機能の実験						
第 7 週	代謝について						
第 8 週	骨格筋の構造と収縮の仕組み						
第 9 週	骨格筋の収縮様式と筋線維のタイプ						
第 10 週	骨格筋の力学・エネルギー代謝						
第 11 週	骨格筋の神経支配と脊髄反射						
第 12 週	脳幹による運動調節						
第 13 週	小脳・大脳基底核による運動調節						
第 14 週	大脳皮質による運動調節						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考	授業内容は変更することもある 八谷担当分は、小テストを適宜実施する						